

## 世田谷村日記

石山修武

六月二十七日 日曜日

十三時半、家づくりワークショップ。高橋さんの家を考える、をテーマに。三十名位の参加であった。私の小レクチャー。高橋さん自身の病状の説明。質疑応答で十五時過修了。二週間で宿題を参加者に送ってもらおう事とする。何か答えが出てくるか、難しいとは思うが待つ事にする。それからの事はそれからだ。十七時過世田谷村に戻る。陶冶郎の原稿書いて、送附。すぐにゲラが送り返されてくる。室内七月号、Memor 8月号送られてくる。銅版画の下絵数点描く。塩野君より二色刷りのチラシ手渡された。二十時過仮眠。二十三時前起きて少し作業。少しは前に進んでいるのかも知れぬが、仲々理想通りにはゆかぬ。マ、仕方ないか。グチはこぼすまい。メイ・サートンの本少し読む。夜中、一人で小さな灯をつけ本を読んでいると、家の暗闇に色んなモノが動いているのを感じる事ができる。台所の長いカウンターに並べられたガラスの群や、ペットボトルの空ビンでさえ何かを語り始めるのだ。

六月二十八日

顔も覚えていない、写真も見た事がない祖父の石山福治の事が少しずつ解り始めている。今日は家内が文京区役所に生年月日その他を調べに行くようだ。どうやら彼は語学の才に長けていて、独学で北京で中国語を学んだらしい。その祖父の女大学に寄稿し

た原稿の印税がわずかな額だが私のところにくるようだ。女大学の寄稿者リストを見ると貝原益軒、福沢諭吉をはじめ、へへーッと恐れ入る名が並んでいる。

九時世田谷村ゼミ。友岡君の利根町百人スクールの報告。小笠原君幼児退行現象の社会史。このゼミは一直線には進行させない。遠大に遠まわりさせる。十二時迄。昼食を雄大と。十二時二〇分世田谷村発。十三時〇七分発りんかい線直通の電車で新木場へ。トモ・コーポレーション物流センター着工の周辺へのあいさつ廻り。木場の原木協同組合をはじめ、いくつかを訪問。十六時前修了。十六時半五反田TOCビル。一人でコーヒーショップで休む。午後の猛暑の中、歩いているの、アイサツまわりはいささかきつかった。

六月二十九日

午前中、原稿チェック。今月書いたものの中では、イサムノグチとB・フライについて書いたのが楽しかった。十二時馬場さん夫妻来室。十三時半松下電工。J・グライターと再会。元氣そうだ。十四時半、前橋森田工業。十五時八大建設。十六時半(株)カンパイヤ来室。十七時過M1ゼミ。世界の住宅価格の比較研究。少しはマシな報告が開始される。十九時過、森の学校の図面見る。二〇時半修了。何だか今日はこんなに働くつもりはなかったのだが、終ってみれば、少々めいっばいであった。どんな打合わせも、こなす気持はあるのだが、学生との打合わせはやはり少々きついでしょ。言葉が伝わっていないのがわかり過ぎる位わかるのが本当につらいね。手は抜けないし。仮眠を少々とって、深夜十二時大版の銅板画にとり組み始める。デッサン奴はまるで違うやり方で彫らなくては駄目なのがすぐ解った。しかし面白い。止

められない。大きいのはとても一気呵成には彫り切れない。休み  
をとりながら彫る。眠れないなコレハ。